

放課後等デイサービス事業所に対する保護者様からの評価の一覧

公表予定: 令和8年 3月 吉日
事業所名: あおい児童発達センター 全島

アンケート期間: 令和7年 12月20日～令和8年 1月21日
保護者数(保護者): 6名(7人) 回収数: 3人 回答率: 50%

	チェック項目	はい	どちらか いい	いい	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	3					学習室、個別指導室、医務室、調理室と複数のエリアを目的に合わせて使用しております。長期休暇などは掛川児童交流館や公園等で運動しています。指導員の目が届く空間で基準以上の広さを用意しております。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	2			1		「もっとお子さまの力になりたい」という職員の想いを、具体的なアクションへと繋げています。最先端の発達支援を学ぶ外部研修への派遣や、スタッフ間での事例検討を通じたスキル伝承など、多角的な教育体制を構築。全職員が常にアップデートされた視点で教育に臨んでいます。法律に定められた配置基準をベースに、より機動力のある効率的な体制を整えることで、お子さま一人ひとりの密度の高い関わりを実現。現状に満足することなく、チーム一丸となってさらなる高みを目指して精進してまいります。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの位置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか		1			2	
活動の場としての価値	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか	2	1				私たちは、個別支援計画を「お子さまの可能性を広げるための生きた指針」と考えています。ご要望に基づいた計画立案はもちろん、全スタッフがその内容を深く共有し、チーム一丸となって実施。実施後の振り返り(モニタリング)では、お子さまの小さな変化や成長を精細に分析し、よりフィットした支援内容へと柔軟に組み替えています。情報共有の質をさらに高めるべく、保護者様とのコミュニケーション機会を積極的に創出し、共通のゴールに向かって歩める環境づくりに注力いたします。
	5 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	3					当事業所では、音楽療法的な視点を取り入れた教育を中心に、お子さまの豊かな感性を育てています。活動内容はそれだけに留まらず、集中力や視覚機能を養うビジョントレーニング、社会生活の土台となるマナー習得など、バランスの良いプログラムを構成。さらに、四季折々のイベントを繰り交えることで、活動のマンネリ化を防ぎ、常に新鮮な驚きと学びがある環境づくりに注力しています。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流など障がいのない子どもと活動する機会があるか	2		1			学校や家庭以外の広い社会と繋がるため、地域の児童館等へ訪問し実施しています。自由な遊びや集団活動を通して、障がいのないお子さまと自然に触れ合う機会を創出。同年代の刺激を受けられることで、新しい学びに挑戦したり、集団の中でリーダーを学ぶなど、お子さまの意欲が引き出される場面が数多く見られます。一つひとつの出会いを、自信と成長のステップへと繋げていきます。
	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	3					口頭による報告に加え、サービス提供の記録にて支援内容はお伝えするようになっています。今後も、支援計画の説明等にてお伝えできるよう努めます。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	2			1		当事業所では、日々の送迎時間を「大切な情報交換の場」と捉え、お子さまの様子をより細やかに共有する体制を強化しています。半期に一度の定期面談はもちろん、年度の途中でご入所されたご家庭が孤立感を感じることもないよう、迅速な情報提供と気軽な相談環境の整備に注力しております。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	1	1	1			「こんなことを聞いてもいいのかな」という不安を払拭し、保護者様が常に安心してお子さまを預けられるよう、説明責任を果たすとともに、オープンで温かなコミュニケーションを大切にしています。
事業所の取り組み	10 父母の余の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか			2	1		当事業所では、お子さまの成長をご家庭と二人三脚で支えるため、現在「ペアレントトレーニング」の導入に向けた職員研修を重点的に進めております。スタッフ一人ひとりが専門的な知識を深めることで、ご家庭での具体的な関わり方や工夫をより的確にサポートできる体制を整えてまいります。今後は、保護者様との対話の場をさらに広げ、単なる情報交換に留まらない「家族支援プログラム」を本格的に展開。ご家族全体の安心と笑顔につながる、包括的な支援を目指します。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	2			1		当事業所では、利用者様や保護者様からのご意見・ご要望を、サービス向上に欠かせない貴重なフィードバックと捉え、明確な苦情解決体制を整えています。万が一の不満や問題が発生した際には、担当者をはじめ関係全体で迅速に状況を把握。早急の解決を図るとともに、その背景にある課題を徹底的に分析し、職員一丸となって再発防止と信頼回復に努めてまいります。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	2	1				私たちは、現在提供しているサービスが完成形であるとは考えておりません。お子さまの成長や時代の変化に合わせて、支援の質を常にアップデートし続けることが私たちの使命です。これらにも利用者様の笑顔と満足度原動力に、職員一人ひとりがプロ意識を持って研鑽を積み、期待を超える療育の提供に邁進してまいります。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	2			1		自己評価等の公表を通じて事業所の歩みを可視化する(年度末IBP掲載予定)とともに、個々のプライバシーを尊重した情報管理を徹底しています。お子さまの繊細な個人情報、許可なく外部に漏れることのないよう、組織全体で厳重に守ります。また、自らの様子は送迎時のコミュニケーションを軸にリアルタイムに発信。これからも、事業所の活気ある雰囲気や日々の活動を、安心できる形で確にお伝えし、ご家庭との信頼の絆を深めてまいります。
	14 個人情報に十分注意しているか	2			1		当事業所では、お子さまやご家族の大切な個人情報を守るため、情報の持ち出しを厳格に禁じる運用を徹底しています。機密性の高い資料等は、すべて密管理された専用保管庫にて管理。アクセスの制限を厳重に付与することで誤差リスクを最小限に留めています。今後も情報セキュリティに関する職員教育を継続し、より強固な安全管理体制の構築に向けて、組織一丸となって取り組んでまいります。

非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	2			1		不測の事態に備えた対応指針(マニュアル)の開示や、訓練を通じて得られた課題・成果のフィードバックを検討しています。安全対策は内部で完結させるのではなく、そのプロセスを適切に共有していることが、説明責任を果たす上で重要だと考えられています。これからも「守る力」の向上を図るとともに、その取り組みを丁寧にご報告できる体制づくりに注力いたします。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3				非常時に可能であれば避難所として使えるようにしてもらいたい。避難生活が続く事でのパニック、避難が続くようだと、地区の避難所での生活は難しいのかと一瞬も思った事もありますが、すっかり慣れていいので、そのような事ができるようになったら大変助かるな一と思います。今すぐに動いてほしいというわけではなく、徐々にそのような体制が出来たら嬉しいなと思います。	当事業所では、お子さまの命を守る最優先事項として、月2回の定期的な避難訓練を徹底しています。地震や火災だけでなく、近年の社会問題を鑑み「送迎車内での取返し防止訓練」など、実効性の高い有事シミュレーションを重ねております。また、保護者様よりいただいた「特性に配慮した避難場所」へのご要望を重く受け止めております。大規模災害時の避難生活における不安に寄り添い、将来的に当該施設が一時的な安心の拠点(福祉避難所的な役割)として機能できるよう、ハード・ソフト両面での体制整備に向けた検討を段階的に進めてまいります。
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	3					お子さまにとって当事業所が「大好きな場所」であり続けるよう、私たちは日々のプログラムに魔法をかけるような気持ちで工夫を凝らしています。新しい発見や小さな「できた!」の積み重ねが、次への期待に繋がるよう、お子さまの気持ちや興味の変化を敏感に察知、常にアップデートされた魅力的な活動を用意し、毎日をワクワクしながら過ごせる環境づくりに、職員一同、熱意を持って取り組んでまいります。
	18	事業所の支援に満足しているか	2	1				満足との回答をいただいた点については励みとしつつ、「どちらともいえない」という回答については、私たちの支援がまだ一部のニーズに十分応えできていない表れだと真摯に受け止めてまいります。この結果を受け、職員会議において支援内容の再評価を実施し、特に情報共有の頻度や個別プログラムの適合性について見直しを図ります。一人ひとりのお子さまとご家族に対し、より精進の高い、満足度の高い療育を提供できるよう、職員一丸となってサービスの質を向上させてまいります。